

2023 さよなら原発! 3.19 北九州集会

川内原発の60年運転を許すな!



2023年 3月19日(日)
勝山公園(図書館横)
13:00 オープニング
13:10 開会/基調報告
13:25 鹿児島現地からの報告
13:50 集会宣言
14:00 閉会
14:10 パレード出発

*マスクの着用をお願いします。

主催: さよなら原発北九州連絡会 ☎ 090-9478-6195 (深江) FAX.093-452-0665 ✉ mfukae0212@gmail.com

2023 さよなら原発! 3.19 北九州集会

川内原発の60年運転を許すな!

時代に逆行する岸田政権の原発政策

東芝、日立、三菱が相次いで原発輸出に失敗し、もはや原発はビジネスとして成立しない産業になってしまった。ところが岸田政権は、瀕死の原発メーカーに税金をつぎ込み、次世代革新炉を開発し建設するという。極めつけは、廃炉が決まった原発跡地に建設するというから驚きだ。廃炉が決まっても、核のゴミを持って行く場所がなく、更地にはできない。従って、次世代革新炉を建設する場所は永遠に現れないという「オチ」までつく。建設などできないが、原発メーカーを延命させるために税金が投入される。

40年と決められた原発の運転期間を、「60年超」運転も可能だと。もはや正気の沙汰ではない。最近、泊原発の寿命について、「設計の上ではだいたい30年から40年くらいとされている」という住民説明会での北電の回答が記された報告書が規制委員会の資料から見つかった。原発設備の耐用年数や寿命を巡っては、東電福島第一原発や日本原電東海第二原発でも、建設当初に30～40年と記載した資料が見つかっている。これらは、「40年ルール」を決めた国会審議での細野豪志環境大臣（当時）の発言とも一致する。原子力村延命のために国民の安全を切り捨てることは許されない。

国際エネルギー機関（IEA）の報告書によると、風力や太陽光などの再エネは、今後5年間で過去20年並みに成長すると見込んでいる。2025年には再エネが石炭を抜いて世界最大の電源になるとも予測しているのだ。日本だけが世界から取り残されていく。

さよなら原発北九州連絡会事務局長 深江守

川内原発の運転延長は余りにも危険です。
今すぐ廃炉にして下さい!

川内原発1号機は2024年7月、2号機は25年11月にそれぞれ運転開始から40年の期限を迎えます。運転延長をまくろむ九州電力は昨年10月12日、運転期間の20年延長を原子力規制委員会に申請しました。「特別点検により施設の劣化状況に問題がなく、60年時点でも健全性が確保される」としています。これに対して私たちは10月14日、九電鹿児島支店で抗議行動を行い、池辺社長あての抗議文を提出し、運転延長申請の撤回を求めました。

九電が問題ないとした特別点検の結果については現在、鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員会において検討され、さまざまな問題点が指摘されている最中です。その結果を待たず申請することは県民を愚弄する行為です。

また、特別点検の対象に入っていない地震、火山噴火等による危険性も消えてはいません。特に、熊本地震を引き起こした中央構造線が川内原発近傍にあると、田中均熊本大学名誉教授が2015年、貝化石の証拠を提示して指摘しました。何万という機器、何千kmというケーブル、150kmにも及ぶ配管を抱える原発が老朽化すれば、それだけ危険性が高まるのは当然のことです。

塩田知事は県民投票についてマニフェストで「1号機・2号機の20年延長については、必要に応じて県民の意向を把握するため、県民投票を実施します」と明言しました。その後県議会で、「総合的に判断する」と発言しており、本当に実施するかは不明です。私たちは、県民投票を実現させるために、「県民投票条例直接請求署名」を行う準備を進めています。

岸田政権は国民の意思を無視して、「60年超運転」を決めました。

川内原発は私たちの意志で廃炉にします。ご支援ください。

ストップ川内原発! 3.11鹿児島実行委員会共同代表 向原祥隆

六ヶ所再処理工場の危険性と原発の今を考える
ドキュメンタリー映画『カタストロフィ』上映と講演の集い

と き:2023年2月12日(日) 13:00(開場) 13:30(開演) 15:30(終了)
ところ:ウェルとばた(JR戸畑駅前)多目的ホール(資料代500円)
講 師:深江守(脱原発ネットワーク・九州代表)